

千葉県感染症発生動向調査情報

2011年 第10週 (3/7-3/13) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		10週	9週	8週	7週
小児科		15	18	18	18
眼科		2	4	4	3
インフルエンザ*		24	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点あたり患者数

定点	感染症名	千葉県				千葉県 2/28-3/6 9週	
		注意報	3/7-3/13	2/28-3/6	2/21-2/27		2/14-2/20
			10週	9週	8週		7週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	1	0	8
	咽頭結膜熱		4	1	1	4	50
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		22	42	46	31	372
	感染性胃腸炎		111	182	167	176	1,439
	水痘	↓	22	36	29	26	217
	手足口病		0	1	6	1	4
	伝染性紅斑	○	9	10	17	7	89
	突発性発しん		9	3	8	10	45
	百日咳		0	1	0	0	3
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0
	流行性耳下腺炎	○	16	15	19	17	80
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	★○	490	480	407	386	2,997
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	2	0	1
	流行性角結膜炎		0	0	2	0	8
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(4件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	急性脳炎	女性	10歳未満	38度以上の高熱及び中枢神経症状
結核	男性	70歳代	病原体の検出	後天性免疫不全症候群	男性	20歳代	血清抗体の検出

・結核2件(59)、急性脳炎1件(1)、後天性免疫不全症候群1件(1)の報告があった。

()内は2011年累積件数 ※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第10週のコメント

<伝染性紅斑> 前週より増加し0.60となった。過去5年間の同時期と比べると最多。

<流行性耳下腺炎> 前週より増加し1.07となった。過去5年間の同時期と比べると最多。

<インフルエンザ> 前週より更に増加し20.42となった。警報継続基準値(10.0/定点)を越えている。

トピック

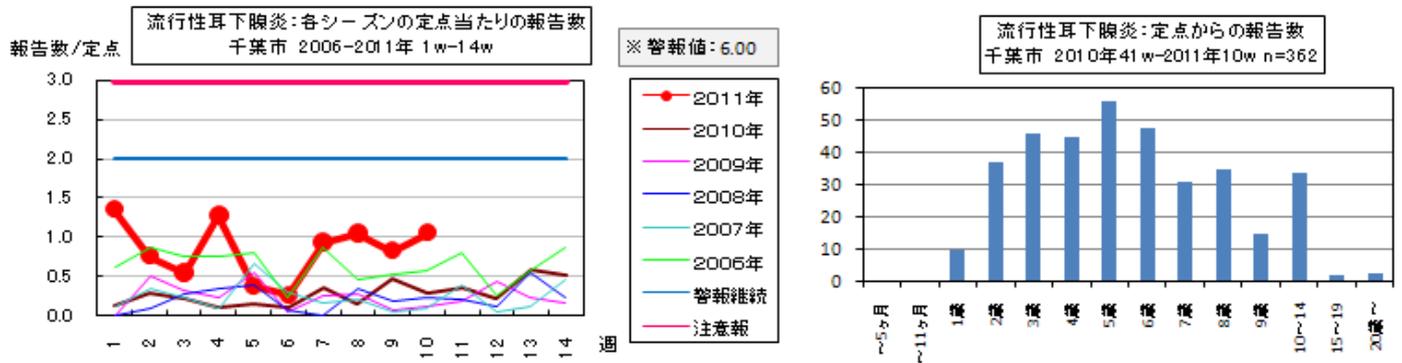
<流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)>

2011年第9週現在は、長野県や香川県で発生が多くなっています。千葉市では第10週では前週より増加し1.07となり、第7週から連続して過去5年間の同時期としては最多となっています。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は2~3週間の潜伏期(平均18日前後)を経て発症し、片側あるいは両側の耳の近くが腫れることを特徴とするウイルス感染症です。接触、又は飛沫感染で伝播し、感染力はかなり強いとされています。

唾液腺の腫脹・圧痛、嚥下痛、発熱を主症状として発症し、通常1~2週間で軽快します。感染しても症状が現れない不顕性感染も多く認められます。腫脹のほとんどは耳下腺で認められますが、顎下腺、舌下腺にも認められることがあります。合併症の多くは髄膜炎で、その他に、睾丸炎、卵巣炎などを認める場合があります。また、頻度は少ないですが、難聴や膝炎は重い合併症の一つです。

効果的に予防するにはワクチンが唯一の方法ですが、患者との接触当日に緊急ワクチン接種を行っても、症状の軽快が認められるのみで発症を予防することは困難であると言われています。集団生活に入る前にワクチンで予防しておくことが、最も有効な感染予防法です。



<インフルエンザ>

今シーズンは全国的に2011年第1週から増加が激しくなっていますが、第4週にピークを迎えた後は減少しています。都道府県別に見ると第9週現在では山口県、愛知県、大分県の順に多くなっています。千葉県では第9週現在は全国平均レベルをやや上回っています。千葉市では、第4週にピークを迎え、その後減少していましたが、第8週から再び増加に転じ、第10週は前週より更に増加し20.42となりました。区別の発生状況では、中央区、美浜区、花見川区の順で多くなっており、中央区では流行発生警報基準値(30.0/定点)に再び達しました。年齢階級別では、10~14歳の患者数が多い他、6歳や9歳の増加が目立ちます。また、型別迅速診断結果の報告によりますと、第9週からB型がA型を上回っています。

ワクチンは、接種してから効果が表れるまで2~3週間かかることとされていることから、早目の対策を心がけましょう。

予防として、家庭内のみならず、外出先においてもこまめに手を洗うなど基本的な予防の励行のほか、十分な栄養と睡眠をとるなど普段から免疫力を高めておくことも大事です。

また、感染した場合は、周囲へ感染を広げないように、外出を控える他、マスクを着用する等の咳エチケットを守ることが重要です。

